

きらめく 津山人

可児 公一 さん

(油木下出身)

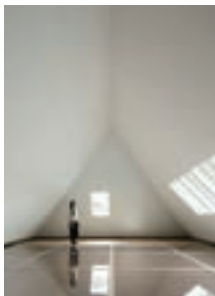
一級建築士・近畿大学非常勤講師

プロフィール

近畿大学を卒業後、神奈川県で建築事務所を開設。津山に建築した住宅が、日本建築設計学会により今年5月からイタリアで開催される「ベネチア・ビエンナーレ国際建築展2016」の日本の今を象徴する10の住宅のひとつに選ばれた。



外観



小屋裏



内観

建築家になろうと思ったきっかけは？

子どもの頃から図工や絵が好きだったので、モノをつくる仕事がしたいと思っていました。建築は、ほかの芸術作品とは違い、建物の中に入って光や風などを感じることができます。そこに魅かれ、大学の建築学科に進学しました。大学で、素晴らしい建築家の先生に出会い、作品を見たり考えを聞いたりしているうちに、自分も建築家になりたいと思うようになりました。

国際建築展に出展される作品について教えてください

1階は、12本の柱が立ち並び、ガラスの建具11組を動かすことで、周りの環境や生活スタイルの変化に合わせて、柔軟に間取りを変えることができます。上部には、柱が全くない大空間を作りました。絶えず変化する空間とずっと変化しない空間という全く異なる世界を行き来しながら、住む人が自分たちの生活を自分たちで作れるようになっています。

今後の津山に期待することは？

津山は城下町で、昔から良いものを残すという土壤があると思います。古い建築物も多いので、建築を通じていろいろな取り組みができると思います。古き良きものの力を再発見・再構築し、津山の文化や魅力を外に発信できれば良いですね。

今月の表紙

桜の花に魅せられて
津山をくまらまっし

4月30日(鶴山公園)



今年の津山さくらまつりは晴れの日が多く、3Dプロジェクションマッピングや城東竹灯籠まつりなど、魅力的なイベントも後押しし、市外から大勢のお客様が来られました。多くの人で賑わう夜、取材をしていると、津山ではないどこか別の観光地に来たような不思議な気持ちになりました。(W)

5月号からフルカラーになりました。作る側としては色の表現の幅が広がり、悩むところが増えましたが、多くの人に読んでもらえるよう頑張ります。雨男のわたしとしては表紙写真が今まで以上に難しかったです…てるてる坊主を作ろうかな〜声かけて掲載できなかった皆さんごめんなさい。(雨)

子どもが自分で釣りをしたいと言っているので、簡単な仕掛けの作り方を教えました。なかなか糸を上手に結ぶことが出来ず、目に涙を浮かべながらやっとのことで出来上がりました。早速、その仕掛けと竿などを持って近くの小川へ釣りに行ったのですが…。どうやら地球が食い付いたようでした。(S)

